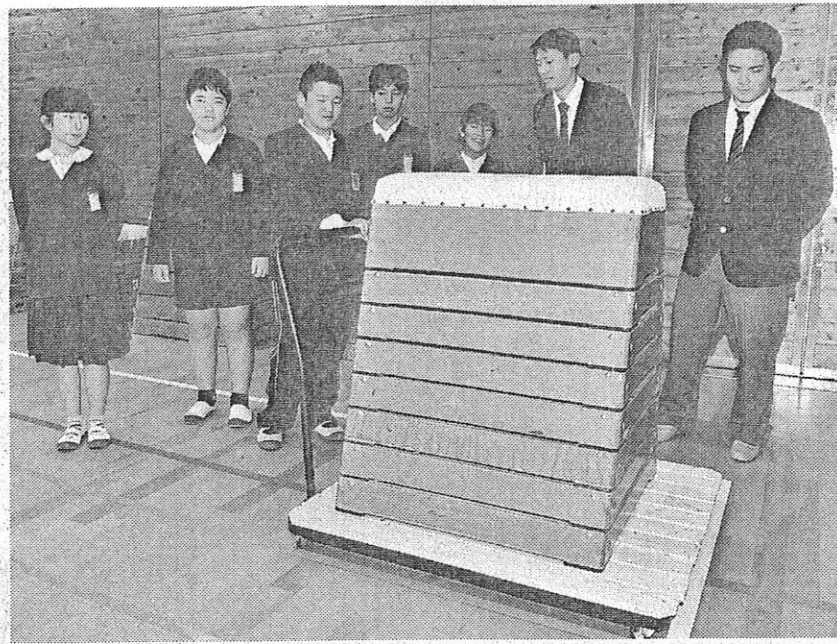


# 田辺工業高校生

## 便利な手作りの台車

### 母校の鮎川小に贈る

田辺市あけぼのの田辺工業高校機械科の生徒がこのほど、跳び箱を運ぶために使う手作りの台車1台を、同市鮎川の鮎川小学校(岸本晃治校長、133人)に贈った。



田辺工業高校では地域貢献が課題研究の授業で作った用の一環として、機械科3年生一員を小学校に贈呈する取り組みを続けている。

台車は四隅に車輪が付いており、大きさは長さ約110センチ、幅約100センチ。材料の鋼を溶接したり、曲げたりなどして骨組みを作り、跳び箱を載せる部分は木材をスノコ状に張った。安全のため、角がとがらないように工夫したという。

この日は中心となって台車を製作した前田泰佑君(17)と山片勇登君(18)が母校の鮎川小を訪れ、児童会役員に贈呈。副会長の那須遼生君(12)が代表して「跳び箱の出し入れがしやすくなる。先輩が僕たちのために作ってくれてとてもうれしいです」と感謝。前田君は「子どもたち

△跳び箱を運ぶため田辺工業高校の生徒たちが作った台車(田辺市鮎川)

が安全に使えるよう気を付けました。作った」、山片君も「溶接が難しかったが上出来」と話して鮎川小に贈るといふ。今後、台車をもっと1台作って